# 『ことばの力を育む』～「ことばノート」の使い方

齋藤菊枝(埼玉県立蕨高等学校、慶應義塾大学言語文化研究所)

## １　ねらい

『**ことばの力を育む**』を読みながら、子どもたち一人一人のオリジナル**「ことばノート」**を作ることで、ことばの豊かさと楽しさ、時に怖さを実感し、「ことば」に対する意識を高めること(ことばへの気づき)をねらいとしています。

自分で考えるとともに、ほかの人の意見を聞くことで、さらに自分の考えを深めることが大切です。答えを覚えることではなく、自分の考えや自分の疑問を大事にして、そこから「ことば」の勉強を始めることを考えて作ったものです。

気がついたことや疑問点を書き込んだり、辞書や本で調べた内容を付け加えたりすることで、手作りの参考書になります。既製品でない、手作りしたノートに愛着をもってほしいと願っています。

## ２　全体の構成

『**ことばの力を育む**』の「**Ⅱ．実践編**」を読みながら、子どもたちが書き込めるように作ってあります。

### □　表紙

自分の名前を大きな字でていねいに書くことやノートの作り方を読むことで、心構えを作ります。

### □　大単元と小単元

| 大　単　元 | 小　単　元 |
|---|---|
| １．ことばの多様性 | (1) 世界の言語と日本語　～　(7) 数字の言葉 |
| ２．さまざまな言葉 | (1) 同音異義語　～　(9) 外来語 |
| ３．文の仕組み | (1) 語順　～　(6) 文の意味 |
| ４．ことばの規則と例外 | (1) 倍数の法則　～　(4) 日付の読み方 |
| ５．言語の個性とことばの特性 | ――― |

### □　《まとめ》

まとめとして２つの課題を出してあります。

### □　【課題１】

２回読むと、１回目には気づかなかったことに新たに気づいたり、よく分からなかったことが少し分かってきたりします。最初から全部読むのが大変でしたら、自分の興味のあるところから始めてもよいでしょう。印をつけながら読んだり書き込みをしながら読んだりすることは、文章を分析的に読む上でとても大切なことです。

子どもたちなりの工夫でもう一回読めるように先生方からアドバイスをしてあげるとよいでしょう。

□　【課題２】

「自分の考えを筋道を立てて説明すること、与えられた情報や資料について、目的意識をもって、自分の知識や経験と結びつけて分析することができるように書かせること」をねらいとしています。

原稿用紙、レポート用紙など、書かせる用紙については、子どもたちが日ごろ使い慣れているものを考えてあげてください。

## ３　「ことばノート」の使い方

□　大単元と小単元「１．ことばの多様性　１　世界の言語と日本語〔P.50～P.51〕」

大単元名と小単元名及び本の該当ページ数が書かれています。

□　まず、本文を読みます。

先生方が子どもたちと一緒に読み進めてください。

□　「あなたが興味をもったことや印象に残ったことを２つ書いてみましょう。」

「事実を正確に把握し、理解するとともに、的確に分かりやすく伝えることができるよう書かせること」をねらいとしています。「２つ」と書きましたが、先生方の判断でまず１つだけ書かせるのもよいでしょう。

□　次に、分かち合いを

子どもたちがそれぞれどんな点に興味をもったのかを発表させます。このとき、発表する側には、「自分が気づいたこと(書かれていること)を順序立てて、分かりやすく伝えること」を意識させます。聴く側には、「自分が着目したことと同じか、違うかを考えながら聴き、自分と異なる見方(観点)があることに気づかせること」を意識させます。みんなの力で読解し、「ことば」について学ぶおもしろさを味わわせたいところです。

□　**クイズに挑戦！**／◆調べてみよう／◇ためしてみよう

あとから見直しても思い出せるように、クイズに答えたり調べたりしたことを記録しておきます。ここでは、正解だったかどうかが重要なのではなく、クラスで、あるいは、一人一人でいろいろ考えるということがポイントです。また、家族や友達とのコミュニケーションのきっかけにもなるところです。

※「**クイズ**」(85ページと95ページ)にある選択肢の表し方が、本と「ことばノート」では異なっています。分かりにくいようでしたら、先生方から補足をしてあげて下さい。

※「なぞなぞ」(85ページと115ページ)の部分は、「ことばノート」の紙面の都合で掲載していませんが、是非みんなでなぞなぞに挑戦して下さい。

□　さらに、伝え合いを

クイズや調べたことなどをもとに、みんなで楽しく大いに意見交換したいところです。

□　☆今日のまとめ～「ことばのふしぎ」発見メモ

「ことば」について考える、「ことば」を意識する習慣をつけることをねらいとしています。小単元ごとに用意してあります。

□　そして、自分との対話・他者との対話へ

自分の学習活動を振り返るフィードバックと他の子どもたちと考えを伝え合うことにより、お互いの考えを深める段階へのステップとして位置付けています。小単元ごとに設けた欄なので、少し小さめになっています。原稿用紙に書かせるなどの工夫をしてもよいでしょう。

## ４　さらに楽しく学ぶために

### □　発展的な取組にも挑戦して

新聞記事やテレビ、図書、家や学校での会話の中から、「ことば」に関するおもしろい話(言い間違い、あいまい文など)があったら記事を切り抜いて持ち寄ったり、レポートしたりするのも発展的な取組になります。ときには、マンガもおもしろい素材になります。

### □　専門家(研究者)の知見も活用して

「言語学」というと遠い存在のように感じてしまいがちですが、『ことばの力を育む』を執筆した先生方の研究をはじめとして、「ことばのふしぎ」の研究はたくさんあります。大いに活用して、楽しいことばの時間を作りたいものです。

たとえば、『探検！ことばの世界』『ことばに魅せられて』(いずれも大津由紀雄著、ひつじ書房)や、『新語はこうして作られる』『日本語の音声』(いずれも窪薗晴夫著、岩波書店)などはわかりやすく、楽しい例も満載です。

### □　大切なことは…

何より大切なことは、子どもたちと一緒に、先生方も楽しみながら学ぶことです。あまりにも身近で気づかなかった「ことばのふしぎ」、学校で習う文法だけがすべてではなかった「ことばの性質」、学校でも家でも、誰とでも一緒に考えることのできる「ことばの魅力」…さあ、豊かなことばの世界に、子どもたちと出かけて下さい。